

Ⅲ 番組の反響と問題の発覚

番組放送後、インターネットのブログや掲示板などに「おかしい。農家にカネを渡すからこうなるんだ」などと、政府がサトウキビ農家を対象に行っている交付金（番組では「補助金」と表記）に対する批判が書き込まれ、取材に協力した島民らが困惑する事態が持ち上がった。

これを受けて南大東村長はテレビ東京に対し、

（１）昨年のサトウキビ栽培農家の平均的な粗収入は約５００万円であり、そこから苗代代、肥料農薬代、機械代金等、生産に必要な経費を除くと、１戸当たりの所得（税法上の「利益」）は１５０万円程度にしかならないこと。

（２）番組にあったような粗収入が１０００万円を超える農家は、２４３戸のサトウキビ栽培農家のうちの２６戸のみであり、それも生産費を除いた平均的な所得を見ると、３００万円にしかになっていないこと。

（３）番組中で南大東島の農家が沖縄本島に豪華な別荘を持っているとされた件についても、島に高校がないため、島民の子供たちが沖縄本島の高校に通うためにはアパートを賃借するか、住居を所有する必要がある、どれもビバリーヒルズの豪邸などと比較されるようなものではないこと。

等々、南大東島の実情を述べ、「（本件番組が）偏見に基づいた、誤解を招く内容」であったとして抗議し、訂正と謝罪を求める４月１日付けの文書を送付した。

テレビ東京があらためて番組内容を調査したところ、村側からの指摘がそのとおりであり、ロケ・ディレクターらが生産費を含めた「年収」をいわゆる純粋な「利益」と勘違いしたまま放送したこと、サトウキビ農家の男性が語った島の経済状況についての裏付けを取っていなかったこと、島民の一部が本島に所有していた住居についても、ビバリーヒルズの豪邸と比肩できるような豪華なものではないことなどが判明した。

こうして４月１８日には、本件番組のチーフ・プロデューサーとプロデューサーが「お詫び」の文書を持参して、また５月２日には同局制作局長とチーフ・プロデューサーがそれぞれ南大東島を訪れ、村長と関係者に謝罪するとともに、６月７日放送の同番組内において訂正とお詫びの放送が行われた。

なお、この間、テレビ東京は本件番組の制作過程を調査した結果を『「ありえへん∞世界」における不適切な表現に関する問題点の検証と再発防止について』と題する文書にまとめ、６月３日に委員会に提出した。